

第7回 青森県人づくり戦略推進会議

日 時：平成26年2月14日（金）

13:30～15:00

場 所：青森国際ホテル 2階 春秋の間

（司会：若木課長）

本日はお忙しい中、ご出席を賜りましてまことにありがとうございます。

定刻よりも若干早いのですが、途中の報告の充実を図りたいと思ひまして、これから進めさせていただきたいと思ひます。

私、県の地域活力振興課長の若木と申します。よろしくお願ひいたします。

会議に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。お手元に配付しておりますが、次第、裏面が出席者名簿となっております。それから席図、資料1「次代を切り拓く人財の育成 一人は財だ！青森県」、それから資料2-1「第10回日本の次世代リーダー養成塾」、資料2-2「次世代リーダー養成塾で学んだこと」、資料3-1「あおもり立志挑戦塾」、資料3-2「あおもり立志挑戦の会（ARC）」、資料4「未来ひらめき創造塾」、資料5「グローバル人財養成セミナー2013」、資料6「奥入瀬サミット 2013」、その他、参考資料といたしまして、「青森県人づくり戦略推進会議設置要綱」、それから地域活力振興課人づくりグループが作成しました冊子としまして、「高校生のキャリアづくり応援マガジン「YELL」（第3号）」、それから「あおもり絆カンパニー」、そして「第10回日本の次世代リーダー養成塾報告書」となっております。脱落等、ございませんでしょうか。

なお、本日出席予定でございました青森県医師会様、業務都合によりまして欠席となっておりますことをご報告いたします。

それでは、ただ今から第7回青森県人づくり戦略推進会議を開会いたします。

開会にあたりまして、本会議の議長である三村知事よりご挨拶申し上げます。

（知事）

皆さん、こんにちは。

だんだん春が来るかなと思つたのですが、降ったり止んだりということがございますけれども、それでも、一方、春がやってくるのかなと、そういう昨今でございます。

さて、本日はお忙しい中でございますが、第7回青森県人づくり戦略推進会議にご出席を賜り、心から感謝を申し上げる次第でございます。

また、皆様方には日頃から県政推進にあたりまして、ご理解・ご協力をいただいております。併せて心から感謝を申し上げたいと思ひます。

さて、私ども青森県におきましては、この度、平成26年度からの県政運営の基本方針と

なります「青森県基本計画未来を変える挑戦」の策定をいたしました。私達は今、人口減少、あるいは少子化・高齢化の進行、グローバル化の進展など、大きな変化というものに、外的変化というものに直面をいたしております。新たな基本計画におきましては、青森県を取り巻く環境変化や、これまでの10年間の取組の成果を踏まえ、2030年におけるめざす姿として、「世界が認める青森ブランドの確立」、「買ってよし、訪れてよし、住んでよしの青森県」を掲げ、「強みをとことん、課題をチャンスに」という基本理念の下で果敢にチャレンジしていきたいと考えております。そのためにも、何よりも大切なのは、重要なのは人財、人の財^{たから}の育成であると、そう考えている次第でございます。

もう古い話になるかもしれませんが、平成18年、県庁に人づくり戦略チームというものを設置いたしました。未来を担う子ども達や地域の担い手の育成に重点的に取り組んできたこと、そういう思いがございます。何よりも、何をなすにもやはり人であると。非常に厳しい行財政改革、財政再建のまっただ中にあり、であればこそ逆に、今こそ腰を据えて、本当に将来にわたってのことを考えた場合に、我々、故郷青森県を心から愛し、この故郷青森と共に未来を築いていくと、そして今を築いていくと、そういう人財を育成する方向性というのでしょうか、我々として推進していきたい、あるいはそれぞれの方々に気がついていただきたいと、そういう思いでございました。

そして、それ以来、様々な、今日もいろいろ発表をいただきますけれども、仕組み、各分野、各ジャンル、経済から学校の方も含めて進めてきたのですが、昨年4月には人づくりの取組を加速し、地域活性化の促進、この観点からも人づくり戦略チームを地域活力振興課に発展をさせまして、人づくり、生業づくり、地域づくり、これを一体のものとして推進しているところでございます。

今日のこの会議は人財育成に向けました気運醸成と関係機関の連携強化、お互いにああいうことをやっているんだな、こういうことがあるんだなと、そのことをまたお互いに知っていただきたいと思えます。それを目的として開催するものでございます。

本日は県の人財育成の取組についてのご紹介を申し上げるとともに、日本の次世代リーダー養成塾に参加した青森高校の山谷さん、我が立志挑戦の会・会長の秋元さんをはじめとする卒塾生、グローバル人財養成セミナーに参加した山形さん。そして奥入瀬サミット、これも大変に全国の女性の方々から好評をいただいておりますが、参加しました葛西さんから、それぞれ体験談、あるいは活動状況につきまして発表をしていただきます。また、未来ひらめき創造塾に参加した古川中学校の荒川尚輝君と田中夢乃さんのビデオレターもご覧いただきます。

その後、本日ご出席の皆様方と発表者の方々と交えまして、次代を切り拓く人財の育成についての意見交換をしたいと思っております。

本日の会議を契機といたしまして、産学官金融の関係機関がさらに一体となりまして人財育成に取り組み、人づくりの先進地青森を目指していきたいと、そう考えております。

なにとぞ皆様方のご理解・ご協力をお願い申し上げ、簡単ではございますがご挨拶とさ

せていただきます。

本日はよろしくお願いいいたします。発表を楽しみにしています。

(司会・若木課長)

ありがとうございました。

それでは、ここからの進行は知事にお願いいいたします。よろしくお願いいいたします。

(知事)

それでは次第に従いまして、(1) 人財育成に係る取組の紹介についての発表ということでお願いします。

(小山内企画政策部長)

県の企画政策部長の小山内でございます。

それでは私の方から、県の人財育成の取組について資料1によりご説明させていただきます。

本県は豊かな自然、その自然が育む安全・安心でおいしい農林水産物、三内丸山遺跡や青森ねぶたをはじめとする伝統的な祭など、先人から受け継いできた固有の文化、さらには昨年、三陸復興国立公園に指定された八戸市の蕪島、種差海岸と階上町の階上岳、階上海岸など、全国に誇れる多様で個性的な地域資源がたくさんございます。この地域資源を生かした地域づくりを進めていく上で、何よりも重要なのは人財であり、人財の育成こそが未来の青森県づくりの基盤であります。

そこで、県では平成18年人づくり戦略チームを設置し、未来を担う子ども達や地域の担い手の育成に重点的に取り組んできました。さらに昨年4月には人づくりチームを地域活力振興課に発展させ、人づくり、生業づくり、地域づくりを一体的に進めているところであります。

「あおもりの未来をつくる人財の育成」では、子ども達が地域の将来を担う人財としてたくましく成長していくことを目指し、キャリア教育の推進に教育委員会と共に取り組んでおります。これまでキャリア教育プログラムの開発などに取り組んできたほか、教育委員会ではキャリア教育の指針を策定するとともに、教育支援プラットフォームの構築などにも取り組んでいるところであります。

この他、県内外の様々な分野で活躍する方々に、職業に就いたきっかけややりがいなどをインタビューしてまとめた「YELL」という冊子を作成し、県内の高校1年生全員に配付してございます。今年度からは高校生自らが企画、取材、記事の制作などを行っています。

また、日本の次世代リーダー養成塾という将来のリーダーの育成を目指すサマースクールに、県内の高校生を派遣しています。

次に、「あおもりの今をつくる人財の育成」では、地域の個性を生かし、起業・創業、地

域おこしに果敢に挑戦する人財育成のほか、女性の人財育成、県内企業における人財育成の気運隆盛に関する取組を進めているところです。

1つ目が、あおり立志挑戦塾であります。県内の若手・中堅層を対象に、平成20年度に開設したもので、今年度までで148名が塾を修了いたしました。塾の修了生は自発的にあおり立志挑戦の会というOB・OGの会を設立し、塾の運営をサポートすると共に塾への参加を契機に多様なネットワークを形成し、新たな活動にチャレンジしているところです。

2つ目が、「奥入瀬サミット」です。女性リーダーの人財育成とネットワーク化を目指し、超一流講師陣の講演と充実のアクティビティで構成する新感覚のプレミアムセミナーということで、昨年度から実施しています。今年度は県内外から46名の女性経営者、女性管理職の方々が参加して下さり、高い評価を得ているところであります。

また、会社を元気にしたいという思いを持つ企業経営者などを対象としたセミナー「みんなが好きになる会社cafe」の開催などにも取り組んでいます。

この他にも農業・漁業を牽引していく人財の育成、創業・起業を目指す人財の育成にも取り組んでいます。

こうした取組に加え、人財育成に向けた新たなチャレンジを続けています。1つ目は「未来ひらめき創造塾」です。県内の中学生を対象とした3泊4日のサマースクールで、本県出身の川口淳一郎先生に塾長をお願いしています。グループワークやディベート、プレゼンテーションを重視したカリキュラムで、中学生の創造力やプレゼンテーション能力の向上を目指しています。

2つ目はグローバル化に対応できる人財の育成を目指す「グローバル人財養成セミナー」です。開催地である三沢市の地の利を生かし、米軍基地内大学の教授によるコミュニケーション能力向上のための講座や、フィールドワークなどを通じ、グローバルな視野とローカルに行動する高いマインドを持った人財を育成しています。

さらに、県職員のアイデア、チャレンジ意欲と貢献意欲を引き出すための取組として、庁内ベンチャー制度や庁内寺小屋プロジェクト推進事業を実施しています。

これまで本県の人財育成に関する取組についてご説明してきました。人づくりは、まさに百年の大計であり、県民総ぐるみで人財育成に取り組んでいく必要があります。そして、自由な発想で様々なことにチャレンジする人財が数多く生まれることで地域が元気になり、元気な地域がさらに人財を呼び込み、新たな人財を育て、さらに地域が元気になっていくという人財育成の好循環を作っていきたいと考えています。

県としては、今後も引き続き人財育成を県政運営の基本に掲げ、力を入れて取り組んでいきたいと考えております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

以上であります。

(知事)

こうすることで、県の取組を述べさせていただきました。
次に次世代リーダー養成塾につきまして発表をお願いいたします。

(人づくりグループ 古田主査)

まずは日本の次世代リーダー養成塾の概要について説明します。

日本の次世代リーダー養成塾は、経済界や地方自治団体が中心となって、全国の高校生を対象に、日本だけでなく世界に通用する人財の育成を目指したサマースクールです。第10回目を迎えた今年度の塾には、青森県内の高校生11名を含む全国27都道府県の高校生のほか、海外からもアメリカ・イギリス・カナダ・中国の高校生が参加しました。

福岡県宗像市のグローバルアリーナをメイン会場に、7月26日から8月8日までの13泊14日の日程で行われ、170名の高校生が寝食を共にして切磋琢磨しました。

青森県からは男子4名、女子7名、合わせて11名の高校生が参加しました。参加した高校生は本県出身の川口淳一郎先生をはじめとする一流講師陣による講義を通じてたくさんの刺激を受け、視野を大きく広げてきました。

今年度のハイスクール国会では、「高校生が考える憲法の未来」をテーマに、高校生一人ひとりが今住んでいる地域を代表する次世代の国会議員として徹底的に議論を重ね、憲法草案をまとめました。

2週間に及ぶ塾での活動を通じて、高校生達は一回り大きくなって帰ってきました。参加した高校生の皆さんが将来日本、そして世界のリーダーとして活躍することを心から期待しています。

以上で概要の説明を終わります。

続いて、青森県から参加した高校生を代表して、青森高校2年、山谷清和君から塾に参加した体験談を発表してもらいます。

(県立青森高等学校 山谷さん)

ただ今、ご紹介にあずかりました青森県立青森高等学校2年の山谷清和と申します。それでは発表させていただきます。

プログラムですが、次の1から6の内容で発表させていただきます。

まず最初に、参加した理由ですが、高校に入学して2年が経ち、今まで身に付けてきた知識、考え方など、自分の持っている力が全国のレベルではどれほどのものなのかを試したいということが、リーダー養成塾に参加した一番の理由です。自分に不足している部分を吸収して、人間的に大きくなって帰ってくることが目標でした。全国から高校生が集まるため、自分がとても小さな存在になってしまうのではないかという不安もありましたが、それ以上にテレビでしか見たことがない土地からやってくる同世代の人達と交流できることがとても楽しみでした。リーダー養成塾を卒業した今でも、全国にいる仲間と交流でき

ることは自分の財産であります。

今、申し上げたとおり、リーダー養成塾には北は北海道、南は沖縄まで、さらにはイギリス・アメリカ・カナダ・中国に留学している高校生も参加しました。最初はまるで外国語のような初めて聞く訛りが飛び交う空間に戸惑い、うまく聞き取ることができませんでしたが、しだいに自分達の住んでいる地域の文化、方言などを教え合うなどして深い絆で結ばれた仲になりました。

最も自分の中で印象に残った講義は、元マレーシア首相のマハティール・モハマド先生のお話でした。23年間、マレーシアで首相を務めてきた方の言葉にはどれも重みがあり、参考になりました。その中で「自分の足で外国に赴き、自分で現地の人のお話を聞き取ることが大切だ。」「自分は世界人という人間のうちの1人なのだ。」という2つの言葉を聞き、限定された青森という世界で生活してきた自分へ、より広い世界を見なければならぬというメッセージを送られた気がしました。

リーダー養成塾の大きなイベントとして総理大臣選挙があります。総理大臣になれば、その後のハイスクール国会という連日行われる話し合いを企画、運営するという大役が待っているのです。7つに分かれたクラスの中で、初めに予備選挙を行い、勝ち上がったクラス代表7人から総理大臣を選出するという流れでした。本選挙では会場である福岡県宗像市から実際の選挙で使用されている投票箱、記入台を借りて、本番さながらの投票にはとても臨場感がありました。

福岡に到着してしばらくの間、自分は総理大臣という役職に全く興味がありませんでした。しかし、リーダー養成塾に参加した理由でもある自分の実力を試したいという言葉が後押しとなり、立候補することを決意しました。一度立候補することを決意すると不安はなくなり、自分の行動全てが経験となり、財産に変わっていくのだと思えるようになりました。

そしてクラス内の予備選挙に勝利し、自分が代表になりました。翌日の本選挙のためにクラス全員が自分のための選挙ポスター作りや演説の原稿内容のアドバイスをしてくれて、涙が出そうになるほど嬉しかったです。

そして翌日の本選挙で見事当選し、晴れて総理大臣になりました。今まで感じたことはありませんでしたが、おそらく三村知事を含め、政治家の方も当選した時には同じような心境になるのだろうと感じました。この選挙を通じて、人から支えられることがどれだけ貴重なことなのか、信頼されることにどれだけ重みがあるのかを学ぶことができました。

そしてハイスクール国会の運営を任されたのですが、ここから多くの壁が立ちはだかっていることは全く予想していませんでした。

今回のハイスクール国会のテーマは「憲法」でした。しかし、それ以外はほぼ決まっておらず、何をどのように進めていくかを自分達で決めなくてはならなくて、とても苦労しました。本選挙でクラス代表として戦った人達と共に内閣を作り、うまく国会を運営しようと四苦八苦しながら、「20年後の日本に必要な憲法を考える」という具体的なテーマに決

めました。ここまで達成するのに方針を二転三転させるなど、塾生に迷惑をかけてしまい、自分でも人生で経験したことがないくらい追い詰められた時もありました。しかし、それを乗り越えられたのは内閣の人達の助けがあつてこそでした。

国会中、真剣に話し合っているために塾生同士で真っ向から意見が対立することもありましたが、それもまた普段の学校生活ではなかなかできない経験で、まさしくハイスクール国会だなと感じました。短い国会期間中に意見を集約することの難しさ、方向性を具体化して運営することの難しさを、身を以て体験しました。

次世代のリーダーになるためには何が必要なのか。暑い2週間の中で、先生方の講義、あるいは自らの体験を通じて多くのことを学びました。

加藤暁子事務局長は、リーダーであるために大事なのは強い体であることとおっしゃっていました。また、他の講師の言葉で、真のリーダーとは物事をじっくりと考え、しっかりと腰を据えて行動する人物であり、弁が立つ聡明な人物はリーダーとして三流だという言葉聞いて驚きました。それまで自分が理想としていたリーダー像を真っ向から否定されたからです。それから、自分の視野は広がり、これからもその言葉を意識していかなければならないと強く思いました。

また、自分に不足しているものも確認でき、多くのことを吸収しました。少し先の将来を見据えて行動すること、常に仲間と意識を共有することなど、挙げれば切りがないほどです。自分の変化は周りの環境があつてこそ得られたものでした。共に泣き、共に笑い、時には意見をぶつけあった仲間や様々な知識を与えて下さった講師の先生方、体調管理のサポートをしてくれたスタッフの方など、こちらも挙げれば切りがありません。

一生に一度しか経験できない暑い夏を、今後の生活にどのように生かしていくのか、それが自分の課題だと思っています。どのような形でも青森、そして日本に貢献できる人材になることを目指します。

以上で発表を終了します。ご清聴、ありがとうございました。

(知事)

清和君、ご苦労様でした。イレギュラーですが、久しぶりに総理が出たので、どうですか、小川校長、一言何か。

(高等学校長協会 小川会長)

普段から全然物怖じしない生徒ではありますけれども、これほど立派だとは、地元の先生方は驚いていると思います。これから先の成長が非常に楽しみになってまいりました。期待しております。

(知事)

せっかくですから、立志挑戦塾、どう思う、秋元君。

(立志挑戦の会 秋元会長)

本当に高校生なのかと思ったのですが。やっぱり世界に目を向けているというところがすごく、私もいろいろ感じているところがありまして、やっぱり青森県だけじゃなくて世界、やっぱり先に世界があつて青森県がある。だいぶ今はあるんですけどもね。日本のどこですかと言われて、東京？京都？大阪？青森ってどこなんですかという話になるんです。その時に、青森のことをもっと知って世界に発信していかなければならないと自分達も気がついてきたので、何かすごく通じるところがあるなど。

(知事)

ありがとう。

すいません、今日は自由に司会しても時間内ならばやってもいいということなので。

続きまして、「あおもり立志挑戦塾」ということで、立志挑戦塾は全員でやる？全員で元気よくお願いします。

(人づくりグループ 奥田マネージャー)

地域活力振興課の奥田と申します。私の方から、立志挑戦塾、皆さんご承知の方も多いためと思いますので、手短かにいきたいと思ひます。

立志挑戦塾ですけれども、地域経済、地域づくりを牽引する人財の育成とネットワークづくりを目的として、平成20年度から実施しております。塾の特徴は、国内外の一線級の講師、それから徹底した議論と意見交換ということで、毎回、土曜日・日曜日ですけれども、土曜日深夜まで議論を行っております。それから、先日、知事への成果報告会を行ったところでございます。運営に当たっては、本日も来てくださっていますが、塾修了生の皆さんが運営をサポートしてくださっております。

それから卒業生の取組は様々ございますけれども、こちらはこれからあおもり立志挑戦の会の皆さんから報告をしていただきますので、私からの説明はこれくらいで終了したいと思います。

(あおもり立志挑戦の会 秋元会長)

あおもり立志挑戦塾、卒業生で形成しております「あおもり立志挑戦の会 (ARC)」、私は会長を務めております秋元と申します。よろしくお願ひいたします。

お手元の資料をご確認させていただきながら進めていきたいと思ひます。

まず各期の知事発表の内容です。6期生の方がつい先週、卒業しました。1期生の方がまず、「県内の知らないことを知った」「知る活動」、こちらの方をメインに活動をしまして、立志挑戦の会の方を発足させました。2期生、私は2期生ですけれども、「チャレンジすること」「個々の活動の発展」。3期生、「次世代への継承」。県のユメココ事業から教育に向けた活動をメインにユメココ活動をしております。また、4期生、「行動を起こすこと」「つ

ながりを大事にすること」ということで、後ほど説明がありますけれども、青森マルシェの開催をいたしております。5期生、「楽しみながら県内各地の清掃活動を実施」。こちら、立志巡祭という名前がございます、こちらも後ほど説明がございますけれども、活動を通じながら継続的な成長をしていくということでございます。そしてつい先週卒業をしました6期生、「知っているつもりだった青森県」。こちらのことをもっと知らなくてはいけないということと、「地域再発見と地域リーダーとのふれあい」ということをテーマに、それぞれ活動をしていくというお話でございました。

続きまして立志挑戦の会の概要につきまして、事務局長の蛭名よりご説明します。

(あおもり立志挑戦の会 蛭名さん)

立志挑戦の会とはということでございまして、1期生の先輩の方が原点ということで、目的といたしまして、会員それぞれが、ふるさとあおもりを深く知り、ふるさとあおもりを思い、あおもりを元気にする人財を増やすということが目的でございます。

下段の方に、あおもりを離れても、ふるさとあおもりを思い、ふるさとあおもりを語り、そしてあおもりファンを増やしていくということで、決して青森県内にいて活動をするということに限定されることなく、県外や海外の方でも青森を思いながら活動をしていくということが趣旨となっております。

次のスライドにまいりまして、構成ということでございますが、現在、25年12月現在で131名、男性が117名、女性が14名となっております。

青森県の地図で色を着けさせていただいておりますけれども、カバー率80%くらいかなといったところで、現状となっております。

メンバーの業種、所属、そちらの方は多種多様なご覧のとおり業種となっております、様々な職種の方がメンバーでいらっしゃるということでございます。

これから、今回は「わ」、津軽弁で「私」ということになると思うんですけども、4つの「わ」ということでテーマにいたしまして、それぞれの委員会の方から活動の報告をさせていただいて、それから、これから恩返しをしていきますということで締めたいと思います。

まず初めに、立志巡祭～輪の活動～ということで、田中清一さんの方からよろしく願いいたします。

(あおもり立志挑戦の会 田中さん)

立志巡祭実行委員会代表の田中清一と申します。

私達は輪の活動、車輪の輪と書いて、県内でどういったことをやっているかと言いますと、県内40市町村を清掃活動等で巡回しまして、各地域の環境整備、地域間交流を深めることにより、地域の魅力アップや会員相互の親睦、成長につなげ、ゆくゆくは青森の発展に貢献するというのを目的で活動しております。

何でこの活動をするようになったかと言いますと、我々、立志挑戦塾5期生なんですけれども、第5回目にイエローハットの創業者で、日本を美しくする会の相談役の鍵山先生の講義を受けました。それで、地域の環境を整えることの大切さを知りました。さらに、私達は県内に住んでいてもなかなか県内各地、全40市町村に足を運ぶということがなかなかないよねということで、であれば、この活動を通じて県内各地に実際足を運んで、そこで、やっぱり行ってみなければ分からないねということで、その清掃活動と県内各地に足を運ぶということで、この立志巡祭というのを企画いたしました。

昨年は4回開催いたしまして、まず4月21日は十和田市休屋地区、十和田湖冬物語の雪解けの会場清掃をさせていただきました。さらに6月9日は三戸城山公園清掃。この場所を決めたのは、昨年の知事の報告会で、くじで三村知事に引いていただいた場所です。そして次が9月7日が東通村、11月9日はむつ市運動公園ということで、4カ所、去年は清掃をやらせていただきました。

まず午前中に清掃活動をして、昼食はその地域の特産のものを食べて、そして午後からその地域の特徴ある場所を回って地域を知る活動をするということをして、今後も続けていきたいなと思っております。

まさに、自分達が車輪の輪となって、いろんな地域に足を運んで、自分達の成長、そして青森の発展に今後も寄与していきたいなと思っております。

(あおもり立志挑戦の会 小田切さん)

続きまして、私、小田切から「あおもりマルシェ」の説明をさせていただきたいと思えます。

「あおもりマルシェ」、平成24年7月からスタートいたしまして、2年目を迎えることができました。この「あおもりマルシェ」は青森の基幹産業であります農業を担う若手の素晴らしい方々と、その野菜をもっと青森の方に広く知ってもらいたいという思いを実現したものです。今年度は「あおもり立志挑戦の会」と「農業トップランナー塾」に加えて、「浜のマネージャー塾」の方々にもご参加いただきまして、悲願の3団体連携ということが実現いたしました。

今年の「あおもりマルシェ」ですけれども、テーマを「もっと青森が好きになる、青森の盛りだくさんな緑と元気に出会える場所」ということで開催しまして、台風によりまして1日中止とはなりましたが、計4回、5日間開催しまして、来場者は26,500名、売上が638万円と、当初の目標を大きく上回る成果を挙げることができました。

イベントでは地域をせっかくなのでもっと知ってもらいたいということと、食育ということもテーマに取り入れまして、ねぶた囃子の演奏であるとか、野菜の模擬せり、野菜ソムリエの野菜クイズ、また地域の子どもの発表会といった機会の提供も行ってあります。

それで一番嬉しいのは、この「あおもりマルシェ」をやったことをきっかけに、様々なイベント等からの出店要請がありまして、トップランナーの方々の販売機会がすごく増え

ております。いろんな地域の方に行った時に、個人の名前ではなくて「あおもりマルシェ」というグルーピング、ブランドを使って販売していただけるということで、活動の輪が着実に広がってきているのを実感しております。今年は3年目になりますけれども、今以上のものにしていきたいと思っておりますので、皆さんの応援をよろしくお願ひしたいと思います。

(あおもり立志挑戦の会 青田さん)

3期生の青田です。私からは、もっとユメココ事業についてご説明いたします。

もっとユメココ事業とは、高校生を対象に、様々な業種の集まりである私達立志挑戦の会のメンバーが、人生観や職業観、国際観を伝えることで、人生への志や職業上への目標を意識させるきっかけ作りになればという思いで行っている事業です。

今年度は8月に五所川原農林高校、食品化学科1年生35名を対象に行ってきました。講師は1期生の羽賀裕也さん、若井暁さんが行いました。羽賀さんは自身の人見知りを克服するために10以上の仕事を経験したこと、デザインの仕事をした時の失敗談などをジョークを交えてお話されました。若井さんはタラコの製造、流通過程を、世界地図を使いながら説明してくださり、食卓に上がるまでにはいろいろな手が加わっていることを分かりやすく話していただきました。

後ほどいただいた感想文では、「知らない世界がたくさんあることが分かった。」「将来のことを考えるきっかけになった。」「自分に合った仕事を見つけたいと思った。」などの感想をいただき、やって良かったと感じました。来年度以降も継続していくことを目標に、この事業を続けていきたいと考えております。

(あおもり立志挑戦の会 蛭名さん)

それでは最後の4つ目の「わ」ということで、「我」の活動ということになりますけれども、個々人の地域等での活動ということで、一部ですけれども事例を挙げさせていただいております。

まず、やはり会長を載せなければいけないでしょうということで、秋元さんですが、地元の弘前、青年会議所の方でリーダーとなり、弘南鉄道の利用者の増加支援対策ということで、乗車券付きライブ企画の実施ということでリーダー的に実施されておりました。

それから右の方にまいりますと、4期生の臼田裕さんですけれども、被災者との交流支援事業ということで「上北ふれあいキャンプ」の実行委員長として活躍されておりました。

それから下段の方にまいりますと、七戸町で「ドラキュラ de まちおこし」ということで、田中清一さんは先ほど棺桶から出ていらしたということでございます。

右側の方にまいりますと、六ヶ所村の方で地元の商工会青年部活動に従事されている1期生の岡山信広さんということで、一部ですけれども挙げさせていただきました。

次に、「恩返し」というテーマで、若干お話をさせていただきます。まず恒例になりつつありますけれども、青森県庁の部局横断寺子屋というものに立志挑戦の会も参加させていただいて、青森県の未来ということについていろいろなご意見をお話させていただいております。

2つ目といたしまして、未来ひらめき創造塾でございますが、この後に詳しい説明が県の方よりあるということでございますが、塾生が参加して、子ども達に仕事のこととか人生観などをお話しました。

次に地域・職場・文化ということで、まず左側の上の方ですけれども、「あおもり雪まつり」の方に青森地区のメンバーが中心に、これも恒例になりつつありますが参戦しております。

それから右の上側ですけれども、みちのく銀行さんの情報誌に掲載されているのが、どちらも1期生の吉川さんと對馬さんということで、りんご農家の對馬さんとみちのく銀行の吉川さんのお仕事上でのつながりも出てきていますよということでございます。

下段の方にまいりますと、地域のお祭りに、私、蛭名は三沢でございますので三沢、1期生の大中さんは、弘前のねぶたまつりということで、運行の責任者などリーダー的な役割を果たしております。一部でございましたがご紹介でございました。

次に塾の運営についてということで、工藤の方にバトンタッチいたします。

(あおもり立志挑戦の会 工藤さん)

塾の手伝いをしております工藤と申します。やはり、最大の恩返しはあおもり立志挑戦塾のサポートと考えております。同じ仲間を増やしたいということで、塾へ資金提供、会の方から個々に集めたお金を提供させていただいております。また、共に学びたいということで、塾のサポート、またファシリテーターもやっております。

今年度からですけれども、卒業した塾生から講師の方を選んでお話しさせていただいております。やはり年齢が近いということで、対話も弾みまして、大変盛り上がりました。今回の6期生は募集人数よりも大幅に集まりまして、だいぶ定着してきたなということを感じております。

以上です。

(あおもり立志挑戦の会 秋元会長)

最後に、まず青森県から全国・世界にということで、青森県だけではなくて世界に自分の思いを伝えるに、種市香織さん、青年海外協力隊で今年勉強をして来年から行くということでございます。また、ドバイで教育関係の仕事をやる2期生の吉田さん、東京都は原燃の西村さん、3期生です。また田口さんは前の職場をお辞めになって、結婚してしまったんですが、それでも青森県のことをやっぱり好きだということで、キャンペーンスタッフとしてイベントで青森県の告知をやっていただいているということでございます。

我々、世界を‘あおり色’に染めるために、私達、あおり立志挑戦の会、それぞれ利害関係とか仕事のつながりは元々全然ございません。またメンバーの構成に関しましても、官民間わず、市役所の職員であるとか県の職員であるとか、私は民間、それぞれ立場は違えども、1つつながっているものがございます。何かいうと「志」ということでございます。この青森をよくしたいという思いが私達をつなげまして、その思いを今後とも世界に向けて発信していき続ける活動をしていくことが、私達は知事から機会をもらったわけですから、使命だなと思っております。

今後とも、この‘あおり色’に染めるために、仲間を増やして、この青森から世界に発信していきたいなと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

ちょっと長くなりましたけれども、ご清聴ありがとうございました。

(知事)

立志の方から発表をいただいたんですけれども、志ということ^{たから}を1つの自分達の財として、それぞれが活動してくれています。また、イレギュラー的でございますが、弘前大学の方からせっかく今日お出でいただきましたので、こういう人づくりのことはなかなかないと思うんですけれども、何かご意見がありましたら。

(弘前大学 伊藤理事)

県の政策にしろ、今の発表を伺って、何か勢いをすごく感じて、とてもうらやましいなというふうに思いました。ぜひ、うちの大学にもそういう血を入れていただきたいというふうに願っています。

ありがとうございました。

(知事)

いや、弘前大学とはいろいろ連携をしているんですけれども、PGにしろ、ビッグデータにしろ、すごいじゃないですか、最近、行け行けという感じで。開かれた大学で、ありがとうございます。

九戸さん、こういう場合はやっぱり大御所としての発言が突然求められるわけございまして。若い方々に一言。

(観光連盟 九戸専務理事)

県内カバー率が8割がただと。地図を見ますと、どうしても集まるのが大変な地域の方が多いので、ぜひ、ぜひ、深浦・鱒ヶ沢、海辺の方が多いようですので、お声をかけて県内くまなく皆さんの輪が広がるようにしていただきたいのが1つと、女性としてはやはり女性率、世の中半分半分のはずなのに、どうしてこういうのだけ女性が少ないのか、常に思っています。ぜひ、女性にも積極的にお声を掛けていただければと思います。

(知事)

立志の皆さん、ありがとうございました。

次に、先ほども立志の方からも話がありましたけれども、「未来ひらめき創造塾」についての発表をお願いします。

(人づくりグループ 辻主幹)

「未来ひらめき創造塾」につきまして、事務局の方から報告させていただきます。よろしく願いいたします。座って失礼いたします。

「未来ひらめき創造塾」は今年度、子ども達の創造力を育成するためということで、初めて開催したものです。県内の中学生 30 名を対象に、同年代の仲間との共同生活を通じて広い視野と高い志や、故郷への愛着と誇りを持った、創造力豊かな子ども達を育てるためということで開催したサマーセミナーです。

コンセプトは3つあります。1つは、生徒と教師が共に創造力を磨くこと。参加した中学生だけでなく、塾の中では理科と英語の授業がございまして、県内の若手の教員の方々に授業の内容をとことん考えていただきました。

2つ目は、プレゼンテーションとディベートを重視。各授業の中には考えたことを相手にしっかり伝えるプレゼンの場を設けました。

3つ目は、ふるさとへの愛着を育てること。塾の中で青森を世界に発信するというテーマで、グループでディスカッションをした内容をプレゼンをして皆さんに発表しました。

今年度、平成 25 年度の実施状況ですが、今年度は 8 月 16 日から 19 日の 3 泊 4 日の日程で、青森市内において開催いたしました。県内の中学生 30 名を対象として実施したところです。メイン会場は県総合学校教育センター、宿泊場所としては青森公立大学国際交流ハウスの方を使わせていただきました。

塾では本県出身の宇宙航空研究開発機構の川口淳一郎教授を塾長に迎え、県内中学生の教員や教師に、教科書やインターネットに答えが出てないテーマについての授業や、青森を世界に発信するための方法について考えるグループワークやプレゼンテーション、外国人留学生との交流など、創造力を鍛える 3 泊 4 日の朝から晩までのカリキュラムでした。

塾長の川口先生には開塾式や閉塾式をはじめ、最終日の夜の部の交流会では塾生の質問に答えてもらったり、様々なアドバイスをいただきました。

また塾生のプレゼンの際には講評をいただいたり、今回はお忙しい中、一度実は神奈川の方にお戻りになって、再度また青森の方に来ていただき、塾の方に出席していただき、様々な場面で塾生を導いてくださいました。

また、塾長からのメッセージということで、こちらのスライドの方にございますけれども、塾長の方からは「未来は創造でしか拓けない。教科書には、過去しか書いてありません。この塾で、創造力の出し方を、自ら探してほしい。」というようなメッセージをいただいております。

次に、この塾の全体の進行役は、本県の出身であるキャリアカウンセラーの工藤倫子様にお引き受けいただきました。現在、国内外で大変活躍していらっしゃいます。全期間、塾の企画の段階からたくさんアドバイスをいただき、塾全体のコーディネートをしていただきました。授業以外の場面でも塾生を温かく見守っていただきました。

今年度の主なカリキュラムです。コンセプトに基づきまして、いくつかカリキュラムがございました。1つは、生徒と教師のひらめき創造教室ということで、今回は「教科書やインターネットでは答えが出ていない問いについて、とことん考え抜く経験を積む。」ということで、理科と英語の授業を行いました。理科の方では講師として古川中学校の安部慎也先生にご協力いただきました。テーマは「身近なものから見つける！最先端の種」ということで、実際には6つのグループに塾生を分けまして、各グループで生卵を衝撃から守る「衝突安全ボディ」を作るということで、こちらのスライドの方に写真がございますけれども、実際に生卵を子ども達に渡しまして、セロハンテープや工作用紙など、あとはストロー、そういったある物だけで安全ボディーを作るということで、実際に県学校教育センターの2階の方から実際に落として実験をしてみました。パラシュートの形をしたものや、周りをぐるっと囲んだものなど、様々な形をしたボディーの方を子ども達は作り上げました。

次に英語の授業です。英語の授業の講師の方は、小湊中学校の佐井川真紀先生に講師をしていただいております。テーマは「ユーモアを武器に！英語でディベート」ということで、実際にはテーマとして、犯罪が多発する街を平和な街にするためにはどんな超能力が必要かについて考えてくださいということで、この授業は実はオール英語で行っております。全て英語で行いました。そしてプレゼンテーションの方も、子ども達が最後は英語でプレゼンテーション、6つのグループが行いました。

この英語の授業の時には、実は外国人留学生の皆さんにもサポートしていただいております。今回は外国人留学生6名の方、国籍はタイや韓国や中国、台湾、マレーシアなど、6名の方にご協力いただきました。また青森市の国際交流員の方にも塾の方をサポートしていただいております。

主なカリキュラムとしてもう1つございまして、中学生のチャレンジプロジェクトということで、青森を世界に発信する方法を考えるグループワークとディベート、プレゼンテーションを実践する、そして「ふるさと青森」を深く知ろうというものです。

内容としては、ディベート編では「ひらめきワーキング」、実践・プレゼンテーション編では「AOMORIを世界に発信する」というテーマで、それぞれ子ども達に最終的にはプレゼンテーションをしてもらうという形で行っております。こちらの写真の方でございますように、プレゼンテーション「AOMORIを世界に発信する」は、会場の方に私達があらかじめ準備をしたもの、そういったものも活用しながらパフォーマンスをしたり、そういったものも含めながらプレゼンテーションを行っております。

主なカリキュラムとして、次に交流企画というものを行っております。3泊のうち、夕

飯を食べてから3日ございまして、その中ではそれぞれ県内の若手社会人の方との交流、これは先ほどお話いただきましたあおもり立志挑戦の会の皆様の方に、初日の夜、青森公立大の国際交流ハウスの方にお集まりいただいて、皆さんに仕事についてというテーマについて交流をしていただきました。

また、外国人留学生との交流ということで、これも青森中央学院の外国人留学生の皆さんにお越しいたいで、日本語以外の言葉、言語に触れるということで、皆さんの母国語、留学生の方々の母国語を通じて、諺、日本語の諺と同じような母国語がないかということで、そういったものを中心に交流を深めました。大変子ども達は外国語の方に興味を持っておりまして、身を乗り出して交流をしていたのがとても印象的でした。

最終日、3日目の夜は川口塾長との交流ということで、塾長への質問、また塾全体のまとめということで行っております。最終日は塾長の講演がございました。テーマは「はやぶさプロジェクトから君たちに伝えたいこと」ということです。

塾生の感想についてです。今回は残念ながらこの会場にお越しいただけませんでした。というのは、塾生の半分以上が3年生です。今受験を間近に控えておりましたので、今回、ビデオレターということで、古川中学校の2名の方からメッセージをいただいております。

<ビデオレター>

・未来ひらめき創造塾に参加して、学校ではできないことを体験することができました。卵の黄身を守る実験では、決められた材料を使ってボディーを作ることに挑戦しました。何度も失敗しましたが、皆とアイデアを出し合い、試行錯誤することで成功させることができました。

・今回、未来ひらめき創造塾に参加して、普段できない授業から、自分のひらめきを追求していくことの楽しさと、積極的に挑戦していくことの大切さを教わりました。この経験を大切にして、社会人になってから青森県のさらなる発展のために貢献していきたいという気持ちがさらに深まったので、参加して本当に良かったです。

今年度の塾生の感想でした。

あと、この塾についてはさらに続きがございまして、実は先週1週間、この塾の塾生の中から3名を京都の立命館中学校で開催されるリッツグローバルサミット2014の方に派遣させていただいております。これまた塾長のご紹介などがあって、ご縁があって実現できたものです。使用言語は英語、1週間全て英語でございました。海外から多くの中学生と一緒に交流をしております。本県から出席した男子3名の中には受験生もおりましたけれども、一生懸命青森県をPRするというので、青森県の紹介、また文化紹介などパフォーマンスの方も実際に行っております。この写真はその様子の方です。

平成26年度につきましても同様の日程で、規模で開催する予定になっております。

最後に、今回塾を開催するにあたりましては塾長、進行役の方々の他にも多くの方々にご協力を得ております。県教育委員会の皆様や施設の方の学校教育センターの職員の皆様、また周知の方では県の中学校長会の皆様、公立大の皆様、本当に多くの方にご協力をいただきました。今後とも引き続き、ご協力の方をよろしく願いいたします。

以上です。

(知事)

ご苦労様でした。

せっかくですので、国立高専の大久保先生、いらしていますね。特にこの理科系的なことも始めたんですが、いかがでしょうか。

(八戸高専 大久保企画担当副校長)

創造性を育てるというのは非常に難しいことだと思うんですけども。本来、それぞれの人達に備わっていると思うんですが、皆さん、創造力が自分はないとおっしゃる方が多いんですけども。あと、この辺の仕掛けをすることによってだんだん自然に身につけていくんじゃないかと思えますね。それが知恵とか工夫とか、そういうことにつながって行って、それがまた新しい社会を生み出す原動力になると思えますので、ぜひこういう仕掛けというんですかね、進めていただければと思います。

さらに一言申し上げれば、さっきの立志の塾の方々の活動もいいんですけども、こういうのを高校生とか中学生だけでなく大人も取り組んで入れていけば、もっと大きく伸びるんじゃないかなと感じました。

(知事)

大変ありがとうございました。大人の方々の活用もといただきました。

中学校長会、どうぞ一言。

(中学校長会 三上会長)

学校にいて、例えば文化祭などで子ども達の発想力というか、びっくりするものがあります。このような未来ひらめき創造塾、実際に体験をして本物の講師陣と触れあわせて、実体験するというのは非常に一つの力になるものだと思っております。うちの方もバンバンやりたいと思います。よろしく願いします。

(知事)

ありがとうございます。

グローバル人財養成セミナーにつきまして、お願いします。

(人づくりグループ 福土主幹)

それではまず事務局の方から、簡単に概要のご説明をさせていただきます。

こちら、グローバル人財養成セミナー、今年初めての取組で実施した事業でございます。

まずセミナーの概要、特色といたしましては、どちらかというスキルの方ではなくて国際的な視野を持って、県の強みなどを積極的に売り込んでいくようなマインドを醸成することを目的に実施してございます。

もう1つの特色といたしましては、こちらは大きいんですけれども、三沢市で開催するというのもありまして、三沢市の地の利、地域資源を最大限に生かしたメニューとして開催してございます。

日程の方につきましては、全3回、9月、11月、1月と、1泊2日で3回実施してございます。

参加者につきましては、県内各地から32名の受講生が参加してございます。三沢市だけではなくて青森市、弘前市、八戸、むつ市など、各地から参加されてございました。

こちらプログラムの構成でございますけれども、マインドというものを重視しつつも、しっかりとスキルも養成するというので、マインド・スキル・交流といった部分をこういったプログラムで実施してございます。プログラムの詳細につきましては、こちらでございます。第1回につきましては、メインが公開講座ということで実施してございまして、その後、交流会も実施してございます。第2回につきましては、世界を知る、日本を知る講座のほか、米軍基地内での交流ということで交流会を実施してございます。第3回につきましては、こちらは基地内でフィールドワークというものを実施してございまして、実地でのフィールドワークの実施でございます。その他、3回を通してのコミュニケーション能力向上講座というものも実施してございます。

各講座の詳細といたしますか簡単な概要ですけれども、公開講座につきましては、こちらは聴講生を含めまして150名の方が参加されまして、世界で活躍するために必要な力ですとか、なぜ世界を舞台に活動をするのかといったことを、2名の講師の方にお話をいただきました。

世界・日本・青森を知る講座では、第2回、第3回と開催いたしまして、グローバルな視点から見た日本、青森の姿についてのお話、また県内グローバル企業の活動の実例についてお話をいただいております。

こちらの三沢市の基地内大学の方からは、2名の講師の方、こちらアメリカ人のネイティブな方ですけれども、2名招きまして、英語での参加シリーズによる講座を実施してございます。第1回、第2回と座学をやった後に、第3回にステップアップしてフィールドワークをするという構成にしてございました。

こちら、交流してございますが、交流につきましては三沢の最大の強みということもありますので、外国の方がたくさんいらっしゃることから、こちらの方々との交流会を開催してございます。呼んだ方につきましては、市在住の外国人の方ですとか国際交流協会の方、

その他、第2回につきましては首席領事の講演もございましたので、基地関係者と領事館の関係者も交えまして交流会を実施してございます。

最後に、こちらは参加者間の意見交換を通しまして多くの意見に触れることでさらにマインドを高める、挑戦力を高めるということを目的にグループディスカッションを実施してございます。第1回テーマとしまして「グローバルとは」、第2回としましては「青森の魅力について」、そして第3回につきましては「全体の振り返り」ということで、総まとめをした上で今後の目標設定ということを設定していただきました。

今回はその中で山形さんに来ていただいておりますので、これから感想ですとかお話をいただきたいと思います。よろしくお願いいいたします。

(知事)

山形さん、お願いします。

(ハード工業有限会社 山形さん)

ハード工業の山形虎雄と申します。今回、このセミナーに参加したきっかけを話す前に、まず自分の英語力がどの程度のものだったのかというのを言いたいと思うんですけれども。

英語が、実は本当に死ぬほど大嫌いで、中学校・高校って、ずっと赤点ばかりとり続けて、もう英語は見るのも嫌だという感じだったんですね。その後、就職しまして海外で仕事をすること何回かあって、半年ぐらいアメリカに行ったりもしていたんですけれども、けども通訳の方がいたりとかして、実際英語を使わなくても何とかなつたということで、今まで何とかなつたからいいかなと思いつつも、心の中で、自分の言葉で海外の方とコミュニケーションとれたらいいなと漠然と思っていたわけなんですよ。

それで、そういう話を友人の方に、何かきっかけがあれば、もしかしたら勉強をすることもかもしれないねと、軽い気持ちでしゃべったんですけれども、そうしたらその友人の方からメールが来まして、「こういうセミナーがあるので参加しない？私は申し込んだよ」と言われたんですね。自分が言い出しっぺなので、そこまで言われたら参加するしかないなと思ひまして、幸い、紙に語学力は問わないと書いてあったんですね。これだったら自分も何とかなるだろうと思って、そうやってこういうきっかけで参加しました。

実際、行ってみて、まず一番最初、初日に公開講座というのがありまして、いろんなグローバルに活躍されている方々のお話を聞く機会があったんですけれども、その中で特にこの右上の女性の方なんですけれども、自分とほとんど年も変わらない年齢の方で、青森県出身の人なんですけれども、この人が自分のやりたいことにまっすぐに仕事、研究をされている方なんですけれども、まっすぐに向かって行って、そして世界中で、もちろん英語も使いながら活躍されているという話を聞いて、ここでちょっとあまりにも自分にとって衝撃的で、こんなに年の近い人が世界中でこんなに活躍しているんだと、もう面食らってしまったって、これは自分も英語に限らずいろんな言葉を習得して、自分の持っている仕事

を世界中でやっていきたいなど、ここで思ったわけですね。

そして、その後、英語のセミナーが始まって、その前に公開講座でテンションが上がった状態で参加したわけなんですけれども、セミナーが始まってから先生の英語が全く理解できなくて、ちょっとあまりにも自分が英語ができないというのが衝撃的で、しかも自己紹介をしてくれ、英語でというところで、自分は名前ぐらいはしゃべれるので名前をしゃべったんですけれども、その後に自分の仕事の説明をしようとしても何も全然浮かんでこなくて、何もしゃべれなかったんですね。それがちょっとあまりにも悔しくて、このセミナーの1回目が終わった後に私はまっすぐ本屋に向かって本を買って、今日から毎日英語を勉強するというふうに決意したんですね。

三日坊主なせいもあるので、いつまで続くか分からないけれど、とりあえずやれるだけやってみようということでやり始めて、1ヶ月半くらい経って、2回目のセミナーがありました。その時、自分が言いたいことというのはやっぱり1ヶ月半勉強しただけではなかなか言えないのはあたりまえで、なかなかしゃべれなかったんですね。けど、紙に書いて考えると、ちょっとは自分の伝えたいことが書けるなという実感があって、ペーパーワークだけじゃ自分の英語力は全然伸びないなと思ひまして、2回目が終わってから今度はそれプラス英会話教室に通うことにして、今、週2日英会話教室に通っています。

それもあって、それプラス英語の勉強を毎日続けて、いよいよ3回目、3回目の講座は基地の中に入って、自分達のテーマを基にアンケートをとったりとか、そういうことをするんですけれども、そうなるやっばり語学力がある程度必要ということで、それに向けて自分は取りあえず一生懸命勉強してきて、やっばりなかなか外国人の方を目の前にするとしゃべれないんですね。けれども、自分の言いたいことというのを頑張って言おうとして、ちょっとでも通じるとすごく嬉しくて、実際に3回目のフィールドワークというのを体験して自分の英語が伝わって、英語って楽しいなというふうに自分で感じる事ができて、それで3回目のフィールドワークが終わった後に、最後に皆で目標設定をしようと、これから、ということで、紙に皆書いて、右端の感じでああいうふうに発表をしたんですけれども。

その中で具体的な数字を自分は目標設定として書いたんですけれども。それプラス、ずっと長いスパンで考えて今目標としているのは、自分が死ぬ最後の1日まで自分は外国語を勉強し続けますと。私はここで言い切りました。

それを実行するために、この日以降も私は毎日英語を勉強して、今日も当然、時間を見つけて勉強ができるようにちょっと教材を持ってきているんですけれども。

まだ数ヶ月しか勉強してないのでしゃべれるようになったわけではない。けれども、こうやってグローバルセミナーというものがあって、自分がこれをきっかけに英語を勉強する気になれたというのがすごい嬉しくて。

今、目前に目標があるわけじゃないので、ぜひとも、これの第2回をやっていただいて、それでまた自分の目標を設定して勉強していきたいと思ひます。

そんな感じで英語の勉強を自分はこのセミナーを通して始めることを決意できたということ
を今日は皆さんに申し上げたくて来ました。

どうもありがとうございます。

(知事)

山形君、ありがとう。すごく感じるものがありましたし、技術的には世界最高水準の技術
をご自身も開発しているんですけども、その彼が改めて能力をつけた、すごいぞ、青
森の技術で世界という気持ちでいます。

公立大学さん、今日お出ででございますが、どうですか、こういう仕組みを我々やって
いるんですけども。

(青森公立大学 山科事務局長)

県のこの取組につきましては、立志挑戦塾のスタートの時から会場とかうちの教員が全
面的に協力をしていて。

今までいろいろお話を聞いていますと、大人の方、中学生・高校生、それからこの後、
多分女性の方。大学生が抜けていませんか。他の地域から来た大学生がいっぱいおりま
すので、逆に青森に定住させるような取組もしていただければありがたいなと思います。

(知事)

大変よいところをご指摘いただきました。

教育長、そういうわけで、一言。英語教育も含めて。

(橋本教育長)

今日、すばらしい中学校・高校の教師を得たなというふうに思います。ぜひ著作権フリ
ーでビデオなどに今のお話を撮らせていただいたら、子ども達が赤点でも頑張るぞとい
ふふうになるかなと夢を抱きましたので、今後ともよろしく願いいたします。

(知事)

本当ですね、そう思います。

ありがとうございました。

それではお待たせしましたが、奥入瀬チーム、お願いします。

(人づくりグループ 古川主査)

それでは、これから奥入瀬サミット 2013 についてご説明いたします。

奥入瀬サミットは平成 24 年度より、女性リーダーの人財育成とネットワーク化、そして
十和田湖・奥入瀬溪流におけるセミナーツーリズムの振興を目指しまして、全国自治体初

の試みとしまして実施いたしました。

昨年は9月6日から8日までの3日間、星野リゾート奥入瀬溪流ホテルの方で開催いたしました。このサミットは主に女性リーダーを対象にしております。昨年は、北は北海道から南は沖縄まで、まさに日本全国から女性社長や女性管理職、女性社員の方々など46名に参加していただきました。

以降、サミットの様子を写真でご覧いただきたいと思います。こちらは会場前とオープニングの様子です。こちらは全体会、宇宙飛行士の山崎直子さんと全体会に株式会社HASSUNA代表の白木夏子さんの講演の様子となっております。初日の最後は交流会となっております。既に講演をしていただいた白木夏子さん、2日目に講演をしていただく谷川真理さん、JR東日本の鎌田由美子さんにもご出席いただきまして、大変華やかな雰囲気で開催することができました。

2日目になりますが、朝はスペシャルアクティビティから始まります。左側は早朝カヌーツアーの様子です。ちょっと雨が心配されたんですけども、何とかお天気もちまして無事開催できました。右側は谷川真理さんと走る早朝の奥入瀬溪流ジョギングの様子となっております。その後、2日目は全体会3、JR東日本の鎌田由美子さんの講演と、さらに分科会3つ、谷川真理さん、白木夏子さん、鎌田由美子さんの分科会を行いました。2日目の午後はアクティビティとなっております。十和田湖・奥入瀬溪流ならではのアクティビティを体験していただきました。2日目の最後は遊覧船をチャーターしてのサンセットクルーズ。暮れていく十和田湖バックに、フルートとピアノの音色が船内に響きました。

そして最終日なんですけれども、昭和女子大学楽長の坂東真理子さんからご講演いただきまして、最後にクロージングとなりました。

こちらは参加者の方々からの感想となっております。一部をご紹介いたしますと、「かつて参加したことのない非常に貴重なセミナーとなっているなと感じました。」といった感想など、大変高い評価をいただきました。

来年度は9月5日から7日にかけて、場所は同じく星野リゾート奥入瀬溪流ホテルの方で開催予定でございます。

今回の高い評価に満足せず、さらに満足をしていただけるようプログラムを見直しながら今後も継続して開催いたしまして、県内外の女性リーダーが集まるセミナーとして、奥入瀬サミットを定着させていきたいと考えております。

それでは引き続き、奥入瀬サミット2013の参加者を代表いたしまして、株式会社青研の弘前営業所長でいらっしゃる葛西隆子さんから奥入瀬サミットに参加してのご感想をお話いただきたいと思います。

(株式会社青研弘前営業所長 葛西さん)

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました、私、株式会社青研の弘前営業所の所長をしております葛西隆子と申します。

弊社は青森りんごの販売と、それからりんごのストレートジュースを製造販売しております。国内外に発送いたしております、私は主にその営業職を担当させていただいております。

奥入瀬サミットには昨、一昨年と、続けて2回参加させていただきました。まず、このような素晴らしい企画を立ち上げていただいた知事さんはじめスタッフの方々、本当に女性としてありがたいことだと思って感謝しております。

まず私がこの奥入瀬サミットにぜひ参加してみたいと思った動機ですが、やはり素晴らしい講師陣ですね。世界で大活躍されている超一流の女性講師陣のお話が直にお聞きできる、そして質問もできるということで、青森では失礼ながら滅多にないチャンスですので、ぜひ参加してみたいと思いました。

それで、私達は、女性は特になんですが、仕事と家庭と両立して、まして管理職であれば責任もありますので、そういうストレスを抱えながら様々な困難に立ち向かって、いわゆる管理職をやっているわけなんですが、講師陣として活躍されている方々はどのようにそれらを乗り越えて、こういう立派な成績を成し遂げられているのか、そういうことを直にお聞きしたいということがまずきっかけでございました。

それで、私が特に感銘を受けましたのは、こちらにはもうほとんど男性の方々ばかりですけれども、宇宙飛行士の山崎さんのお話なんですね。確かに宇宙飛行士はすごい訓練を受けまして、かなり身体的にも精神的にもハードな試練を乗り越えて立派な宇宙士になるわけなんですが、山崎さんのお話では、決して一人ではできない、どんなに自分が能力があってもやる気がいっぱいあっても、やっぱりサポートしてくれる人、周りにそういう夢を共有してくれる人とかサポートしてくれる旦那さん、そういう人の支えがなければやっぱり成し遂げられなかったらという事でした。

特に山崎さんはご主人も宇宙飛行士を目指した方ですから、そういう点では奥様が先ということはずごく葛藤があったと思われるんですが、「全部俺が引き受けるから、お前、頑張ってこい。全部引き受けるから。」という旦那さんのすごいそういう理解と協力があって成し遂げられたんだろうということで、すごく感謝しておられました。

私も、まさしく、それは本当だなと思いました。やはり女性は出産や子育てとか、いろんなそういう時間的なストレス、やり遂げなければいけない、それから会社の責任も果さなければいけない、そういう思いの中でやっぱり苦しんで、だからこそ女性のリーダーはやっぱりこういうストレスを抱えているということを、今ご出席されているご主人方が結構いらっしゃるので、そういう点も少しはサポートして、優しい言葉の1つでも掛けてあげられたら、まさしく女性の進出はもっともっとできるんじゃないかと。

世の中にはすごい能力のある女性がいっぱいいらっしゃいます。そして、ただやっぱりサポートがなければやっぱり世の中では生きていけないとか、成し遂げられないですね。ですから、そういう点では私達女性もそうですが、女性だからとか男性だからということではなくて、やっぱり平等に、能力ある人が社会で立派に活躍できるようなサポート

があれば、女性もすごく仕事がしやすいのではないかと、せつかく能力があっても会社を退職しなければいけなくなったり休職しなければいけなくなったりすることは、やっぱり国家の損失であるかもしれませんので、そういう点はちょっと男性の方も協力していただければと思います。

それで、長くなりますので簡単に言いますが、私が一番感銘を受けましたのは、皆さんやっぱり女性陣はそういう困難を乗り越えてきたのに、すごく輝いているということなんですね。目がきらきらと輝いて、それからすごく内面から出る美しさというものを兼ね備えています。そして品格もあります。私は、まさしくこういう人達をお手本にして、自分を磨かなければいけないと、人間力を身に付けなければいけないと思いました。女性だからということで決して甘えることなく、それから性別にとらわれることなく、やっぱり自分を磨いていかなければ、部下が女性であれ男性であれ、誰もついて来ないだろうと。やっぱり、その人が尊敬に値する人であれば性別は関係なく部下はついてくる、言うことを支えてくれる、サポートしてくれる、そういう世界に、社会になるんじゃないかなと思ったんです。

すいません、簡単ですが、以上、感想とさせていただきます。

(知事)

ありがとうございました。

女性がいなければ全然動かないと、そういう状況でございますけれども、昨日も葛西さんとか、熊谷さんとか、ものすごい元気だったんですけれども。何か、今お話がございましたので、一言いただければ。

(県漁共同組合連合会 小出専務理事)

県漁連の小出と言います。今、知事さんがおっしゃったとおり、確かに今、漁業の方は女性がだいぶ頑張ってきています。元気があります。ただ、どうしても全体を見回すと、やはりまだ少ないですね。どうしてもやっぱり漁業というのは、職業柄といえればあれなんですけれども、どうしても男が中心になりますので、もう少し、平内とかはやっぱり夫婦、夫唱婦随でやっているところもありますけれども、やはり全体見ても、役員さんを見ても、女性の方がまだ一切いないとか、そこら辺のところ、もう少し我々もおっしゃるとおりサポートしないといけないと、ちょっと肝に銘じたところでございます。一つ、これからもよろしくお願いします。

(知事)

6次産業化の場面においても、本当に女性の方々がいろんな場面に出てきてくれて、先頭に立って走ってくれています。

社会福祉協議会の立場からと聞くのもあれなんですけれども、前田先生、いかがですか。

(県社会福祉協議会 前田会長)

全般的になるかもしれませんが、最初の高校生の山谷さんの発表で、2週間ほどいろいろな方々と、外国人も含めて、言ってみると同じ屋根の下で同じ釜の飯を食ったと。これが私は日本人の昔からのいろんな気質を高めるためにはそれが一番の基本になってきた日本の風土だろうと、こう思って感心して聞いていました。

その時には気がつかなくても、大人になった時に、ああ、あの時はこれだったんだと、こういう人生の発想転換というものが出てくるだろうと、こう思っています。

そして、日本の歴史を理解すべきだと、こういうこともありました。そして、さらにリーダーとしての要件、言ってみると指導者としての要件が何であるかと。こういうこともこの塾の中でたくさん学ばれてきたというふうに関心しておりました。

私は一度、松下幸之助さんの「指導者の要件」という本を見まして、そこにはいろんな要件がいっぱいあります。そこに出てくるのは日本の戦国時代の武将とか中国の何百年前の偉人達を学びながら現在の私がありますと。そういうこともありますし、やっぱり若いうちからそういうことを、日本の歴史を学びながら先ほどの高校生の山谷さんの、やっぱり同じ屋根の下で同じ釜の飯を食ったという、そういうことがこれから大きな人生の支えになっていくだろうと、こう思って感心して聞いていました。

(知事)

ありがとうございました。

それぞれの分野からの発表をいただきましたが、意見交換ということで発言をしていない方には無理にでも発言してもらおうという強い決意と覚悟がありまして。

佐藤さんの方はどうですか、こういうふうにいる私どももやっているのをございますけれども。ご提言も含めて。

(PTA 連合会 佐藤会長)

先ほどもありましたが、本当に高校生の方のお話というのは、私達が40代を越えて、こういう立場になって初めて分かったことが10代の頃に分かるということ自体、大変すばらしいなという形で感心させていただきましたと同時に、中学校のひらめき創造塾の方ですが、こちらの方にPTAとしてご意見を言わせていただきます。

参加費14,000円と書いています。今までは大人の方達のものもありましたが、やはり中学生が参加する時に14,000円ということは、中学生が出せるわけではなくて親御さんが出さなければならぬのかなと。高校生の方はどうなのか。そして小学校のこういうものはないのかなと。あおもり未来を創る人財の育成、未来を創る人財を小中高、そして先ほど公立大学の方でもお話をしましたように、大学と。そして若手経営者の方達というふうにしてつながりを持っていかなければつながっていかなくて。先ほど言ったみたいに30代が頑張っても下の方達がなかなかということになるのであれば、やはりPTAとして、これが

14,000 円、万が一が一会費を親が出さなければならない場合に、どういう費用対効果があるのかということをお聞きしなければ、なかなかきつい話ではないのかなと思っておりました。

そういう部分でいきますと、先ほど言ったみたいに女性の方々と言いましても PTA は女性が強くて、男がどんどん少なくなっておりまして、女性の方が出てくることによって母親委員会がなくなり、逆に親父の会と、親父の会が出なければ親父が出る場所がなくなってくるような形に今の PTA は全国になっておりますので、そこら辺はご心配なく。女性はどんどん、子育ての期間ではございますが、男を顎で使っているのが PTA になってきておりますので。

以上です。

(知事)

PTA 段階ではそうなっているようでございます。小学校も DVD を作ったりしていろいろやっていますので話をさせていただきますが。

小学校長会から、今日の発表についてお願いします。

(小学校長会 高橋会長)

皆さんの話を聞いていて、女性云々という話をしますと、もちろん PTA は女性衆で動いているというのが実情ですけれども。小学校の場合は、もう女性の職員、先生方の方があらかた多いと。ですから女性の先生方にも視野を広げてもらわなければいけないし、力を発揮してもらわなければいけないということでは校長会として、校長としてそれぞれ皆力を発揮する場を与えながら育てるということを立場として考えてやっていると思います。

小学校として、今、PTA 連合会の会長さんの方から、小学校ではという話も出ましたけれども、私達小学校の場合は、やはり視野を広げるような力を私達がつけさせてあげたいということと、それから伝える力をつけさせてあげたいと。いろんな面で外国語、今、外国語活動とか小学校の段階から入ってきていますので、英語そのものを覚えるというよりも、英語を通して世界を知るといような能力、力をつけさせてあげたいな。それが中学校へ行き、中学校へ行き、一般社会に出た時に、より世界的な視野を広げることになるのかなという気持ちで今、います。

以上です。

(知事)

大変ありがとうございます。何か小学校も英語が入ってきますので、山形さんに 1 回話をしてもらおうと、すごくリアリティーがあるので、その時はお願いします。

それでは建設業協会の山本さん。

(建設業協会 山本事務局次長)

建設業協会でございます。三村知事さん、就任前の町長時代から一貫して人財育成、地域づくりという信念でいろいろと施策を展開されてこられて、本日、その取組の紹介と成果の報告があったわけですが、それでは産業界としてはこれにどう対応すべきかと、建設に限らずです。これは雇用ということに尽きると思いますが。これがまた誰でもそう考えるんですけども、雇用を拡大して、今、ご紹介があったような人財の定着、生活の安定ということが産業界の使命だと思うんですけども。なかなか思ったようにいかないのがまた現実でもございます

アベノミクスで景気が上向きと言われておりますが、地方の経済というのはまだ人の採用というのを積極的に生み出せるような状況になってない、またミスマッチも多々あるというふうに私どもの方にも報告が来ております。

そこで、いろいろ業界としても対応しなければならないのですが、県のご支援もお願いしたいんですけども、最近では国の施策としても地域の人づくりということで予算措置も講じていると聞いておりますので、そういう制度等とも連携しながら何とか人財の定着ということを主眼に対応していきたいと思っておりますので、ご指導をよろしくお願ひしたいと思います。

(知事)

ありがとうございました。

中央会、お願いします。

(中小企業団体中央会 吉田専務理事)

中小企業団体中央会の吉田と申します。ちょっと中央会が何をやっているかというのをお分かりにならない方もいるので。基本的には組合、商工関係の事業協同組合の組合関係を支援する機関。それらも含めて中小企業を全般的に支援するところということでご承知おきいただければ幸いです。

今、人財育成の取組、中学生から大人まで非常に幅広くやられているということで、大変ありがたく思っています。特に今、経済団体の側からみて、お話の中に特に中学生の塾の中でも青森県をどう売っていくかとか、そういうお話、それからどういう仕事を創ればいかと、創業とか起業の話まで出てきているということで、非常に感心しました。

多分、我々が中学生の頃はそういう話は一切出てきてないはずですので、それぐらいかなり見方が変わってきているなということが第一印象でした。

我々の一番の重点施策は、やはり創業・起業をいかに増やしていくかということと、それから日本のいいものをいかに海外に展開していくかと、この2点が非常に大きな柱になっています。それを小さい頃からそういう観点で捉えていただいているというのは非常に大事で、これから非常に頼もしいなということを感じました。

ただ、先ほど報告がありました、中学生の塾の中でお二方からお話がありました。やっぱり塾の中では、学校では体験できないこととか、それから普段できないことというお話がやっぱりあるんですね。こういういろんな世界に目を向けるとか、それから国内でも知らないところがいっぱいあるわけですので、そういうのに目を向けるということ。要するに、そういうことを今回のいろんな塾とかのノウハウを、できるだけ学校の活動とか普段の生活の活動の中にぜひうまく溶け込んで、普段体験できないことじゃなくて、普段からそういうことが体験できるように、是非していただきたいなと思います。

ちょっと最後に付け足しになりますが紹介をしておきたいと思います。先ほど奥入瀬サミットで山崎直子さん、宇宙飛行士、宇宙に飛ばれた時、藍染めの T シャツを着られていたんですが、船内活動で、あれは今盛んに売り出しています青森の藍という藍染めでやったやつです。非常に他の藍とは違って、いろんな良さがあるということで。実は先週、今のクールジャパン、日本の海外戦略ですが、日本のいいものを世界に広げようというクールジャパンの事業の一環として、ニューヨークで展示会がありました。その中に青森の藍ということで紹介されていましたので。うちの中央会からも職員が一緒に行っていることをやってまいりました。

それから青森のいいものということで、生ものを直接輸出するのは大変なんですけど、加工品、農林水産物の加工品を出すということを中小企業が、今うちの方でも任意で集まって輸出促進協議会という団体を創って、今盛んにアメリカに売り出しにかかっていますけれども。去年も行きました。今年も3月にまた行きます。

ということで、ニンニクとかりんご酢とか、いろんなそういう加工品を一生懸命売りにかかっていますので、そういう意味ではだんだんこれから青森のブランドを広めますので、一つよろしくをお願いします。

(知事)

それはいいんだけど、英語力は大丈夫？

じゃあオリンピックで寝不足でしょうけど、体協の方から一言お願いします。

(体育協会 田澤専務理事)

ありがとうございます。体協という立場ではなく、一委員としてお話をさせていただきますが。

様々、今、取組を聞かせていただいて、人財育成に向けた取組、それが育ってきているなということで、ある意味ほっとしている部分があります。というのは、今回第7回ですが、第1回の時、私は当時県庁にいて、この仕事に携わった一人でございます、ちょうど平成19年8月の末に人づくり戦略を創って、いくつかの事業を立ち上げたということで、当時、朝から晩まで職員と議論して、県庁に入って初めてでした、別室にいて、とにかくああだ、こうだと。だいぶ議論が収束してきたと思えば、また何を言い出すのかと。よう

やっとの思いで立ち上げたといえますか、家で言えば赤ちゃんを誕生させたと思っておりまして、その後、どうなるのかなと最初は心配しておりましたが、かなり様々な取組をされていて安心したなというのがまずございます。

今、様々お話を聞いていますと、やっぱりこれは人と人との関わりと言いますか、違うジャンルの人達と交わってやるということによって化学反応が起きてくると。人は人を介して何か行動が感知されると言われますが、やっぱりそのとおりだなと。英語を勉強しなければならぬとか、そういうことを改めて感じました。

ということで、常に前だけ向いて、バックギアにいれないで突っ走ると、こういう形で自戒も込めまして進めていきたいと、こう思っております。

(知事)

ありがとうございました。

もう時間も押してきたんですけれども、何かこの機会にございませんでしょうか。

(観光連盟 九戸専務理事)

私自身がもう前期高齢者に突入いたしまして、これから何をしていこうかと、そういうお年寄りが多いと思うんですね。能力のある方はシニアで海外派遣協力隊に入っていられちゃった方もいるくらいですので、見ていると「人づくり」なので、若い人が中心になるのは当然だと思いますが、年々クロスするとか枠を設けるとか、暇で「じぇんこ」持っている年寄りがいっぱいいるので、そういう人達と交流する場というのもあってもいいかなと思いました。

(知事)

いい指摘をしていただいたと思います。それでは、部長の方からまとめてください。

(部長)

今日はお忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。

先ほど小学生も必要じゃないかということがありましたけれども、いろんな場でやられているんですけれども。小学生に対しては働く DVD と、働く姿をお知らせする DVD を作成して配付していると。あと、中学生の未来ひらめき創造塾の 14,000 円、親御さんが支払うと。これは宿泊費と食費、実費分でありまして、1 日あたり大体 5,000 円ということになっておりまして。全体で、学んだ小学生だけでなく家庭そのものとか地域そのものが人づくりの気運が広がっていくと期待しているところでございます。

あと全体でいいますと、時間軸、子どもから大人まで、未来を創る、今を創るということ、時間軸を設定しており、引き続きこういった事業を検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(知事)

それでは時間なものですから、そろそろ閉めさせていただきたいと思います。

山谷総理から何か感想があれば一言。青森県としては2回目の総理だから。本当の国会の総理ではないけど、高校生国会、初代もそうだったし、なかなかうち強いから。今日も聞いてみてどうだった？

(山谷さん)

やっぱり学生の時から、一步何か自分から変えていこうとする勇氣というか、関心を持つということが一番大事なんだなと思いました。中学生の塾でも30人という枠なので、もうちょっとその枠が広がっていけば、全体として、ああこういう塾があるんだなと分かると思いますし、僕が参加したリーダー養成塾も県内枠では10しかまだ枠がないので、そういったところでもやっぱり枠を広げて認知度が上がっていけばいいなというふうに思いました。

(知事)

ありがとう。

それではお願いします。

(司会：若木課長)

皆様、長い時間にわたりましてどうもありがとうございました。

最後に閉会にあたりまして知事からご挨拶を申し上げます。

(知事)

御礼だけでございます。人づくり、言い換えれば青森県の未来を創ることだと、そういう思いで県として打ち出しております。また、小学校の部分とか、ズバツとお金を持っている前期高齢者の方とか、いろいろ意見が出ましたけれども、やはりどの世代、どの時代であっても、特に今日は山形さんの話を聞いて、ああ、そうだな、学ぼうとか自分自身を変えていこうと思えば、その時から変えていけるんだということを思いました。

青森県にとりましては、まさに人の財、人財、これこそが将来に残せる最大のものだと思っております。人が変われば地域が変わる、そういう気持ちで今後とも仕事を進めていきたいと思っております。

今日はそれぞれの皆様方、それぞれの会の皆様方、特に高校生、来年受験を頑張れよということになりますけれども、お忙しいところをご参集賜り、ありがとうございました。また各学校関係の皆様方におかれましては、様々な場面で県と事業を提携いただき、この人財育成、人づくりということについてのご協力もいただいております。併せて感謝を申し上げたいと思っております。

それでは共に青森の人づくり、これからも力を合わせていくことを心からお願いし、閉会のご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。お世話になりました。

(司会：若木課長)

ありがとうございました。

以上をもちまして、第7回青森県人づくり戦略推進会議を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。